

令和元年度尚志館高等学校自己評価表

尚志館高等学校

教育基本方針	校訓『不屈不撓』の精神をバックボーンに、各自の資質を高め、国や社会に貢献できる人間を育成する
教育目標	志を常に高く持ち、多様化する時代に即応した教育、変化する社会の要請に応える教育、知・徳・体の調和のとれた教育により、生きる力を身につけ、国や社会に貢献できる人間を育成する
努力目標	①学習指導を徹底し、学力の向上を図る ②生活指導を徹底させる ③きめ細かな進路指導の徹底により、学力・適性に 応じた進学就職の実現を図る ④部活動の推進・強化

1 学校経営 全職員が共通の理念に立った学校経営の参画における教育的効果の評価

評価項目	具体項目	目 標	具体的方策	総括	成果と課題
学校教育目標と経営方針	学校教育目標の具現化	教職員間の共通理解のもとに、教育目標の実現を図る	課題や生徒の実態をふまえた目標を設定し、具現化に努める	3.4	校訓「不屈不撓」のもと、「凡事徹底」を全職員が意識して、各科がそれぞれの目標達成に向かって特色ある活動を行った。また、反省は数値化されたもので共通理解が得られるようにし、協力体制ができています。生徒、保護者のニーズに応じた各学科の実績を示しており、退学生は少ない。定員の確保は地域の評価を得ている証ととらえ、更なる高みを目指す。

2 教育活動全般における計画的、組織的な教育的成果の評価

評価項目	具体項目	目 標	具体的方策	総括	成果と課題
学級経営	学級目標の具現化	学級目標に沿った学級作りを行う	学校目標や学級実態に応じた学級経営・ホームルーム活動を行う	3.2	担任、副担任で連携し、保護者の協力も加わり、各クラスにおいて独自の立案、活動ができる柔軟な環境を整えつつある。最終的には生徒が「この学校で、このクラスで良かった。」と思えるよう努力を惜しまない。
教科指導	わかる授業展開と工夫改善	創意工夫された学習指導の実践	シラバスを作成し、学習目的や学習方法を生徒に説明する 効果的な授業を行うために教材研究や研修を深める	3.3	年間授業計画をもとに、各クラスの特徴に応じた授業を展開、工夫している。学習の目的を明確にすることは生徒にとって見通しが立つだけでなく、指導者にとっても学習の到達点が確認できる。 新任者による研究授業、授業研究を実施。また、各科の実情に応じた習熟度別授業、視覚的教材の活用、ICT活用に関する研修会等、積極的に参加し効果的な授業のための研修の機会を増やしたい。
特別活動	生徒会活動・学校行事の充実	生徒会活動の充実 学校行事の充実	生徒の自主性・自発性を促し、積極的に生徒会活動に参加させる 効果的な学校行事になるよう、常に見直しを行い、活動内容を工夫する	3.4	生徒会から出された新しいアイデアが少しづつ実践され、自発的に取り組んでいる。生徒会の活動内容が生徒会役員だけでなく、一般の生徒達にも浸透するとさらに良くなる。 学校行事に関して、年間を通したフローチャートの作成、効果的な学校行事になるように教職員との連携など再確認をし、翌年度に備える。各行事ごとに各担当で反省や意見が集約されており、見直し、改善につながっている。
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	尚志館生としての意識を持たせ、自信と誇りの持てる生徒を育成する	基本的な生活の確立を図る 交通ルールの遵守、ネットモラルなど安全教育の徹底	3.3	退学者が少ないことが基本的な生活習慣が確立されていることを物語っている。機会を逃がさないその場その場での指導が重要である。 バイクのスピードの出しすぎ、一旦停止など、生徒指導、担任、他が一体となって継続的に指導することが必要。また、SNSの使用法に注意させる。間違った使い方が心身の健康を害することを理解させる。
進路指導	進学・就職指導の充実	系統的・計画的な進路指導の実践	進路実現のために、個別指導や進路相談・三者面談などを計画的に行う 生徒の能力や適性にに応じた進学・就職指導	3.5	早期からの進路に対する意識付けが必要である。各科、国家試験対策、公務員対策、入試対策として、日常の取り組みだけでなく合宿等も実施し、進路実現のために努力している。また、進学試験、就職試験対策では様々な面接指導をきめ細かく行っている。職業理解、ガイダンスの機会も与え、「進路だより」・「学年別通信」なども新たに発行し、進路選択に役立つよう工夫をした。
保健衛生	心と身体の健康に留意させ学習環境を整える	保健指導の徹底 体育指導の徹底 防火・防災訓練 環境衛生の整備	心と身体の健康を適切に管理する能力を育てる 運動技能を高め、体力向上を図る 防災についての意識の高揚を図る 学習にふさわしい環境を整える	3.2	感染症対策に関して、情報収集、臨機応変な対策を今後も継続することが必要である。近年、心の健康に問題を持つ生徒が増えつつあるため、職員間での情報共有、連携を図り、問題を持つ生徒の状況悪化を防止できるように早期の対応に努力する。防災訓練は今後も中身の充実を図る。環境面では、花壇の整備が進みつつあり、更に良い環境が整いつつある。ゴミ分別については今後も指導を徹底する。
広 報	広 報	定員確保のための広報活動の推進	入学案内・パンフレットの作成 中高連絡会・体験入学の実施 中学校訪問・学習塾訪問・説明会の実施 ホームページ・Eメールの管理 PTA・中学生の訪問受け入れ	3.6	地区別相談会等、新規格の効果もあり定員の確保ができています。今後も継続的に様々なアイデアを出し合い、新鮮な情報提供、発信を継続する。また、入学者を3年間、最後までしっかりと育てることを最優先事項とし、それを職員全員で表す。全職員が広報部の担当者であるという意識で、日常の業務にあたる。また、広報活動以前に、日常の授業、その他、生徒を相手にした校内活動全てにおける生徒への対応の仕方が広報活動、生徒募集に繋がっているという意識が重要である。一教師の生徒への「一言」の重要性を教師全員で認識する。
部活動	部活動の活性化	部活動への参加を奨励し、活発な活動を行う	部活動への積極的な参加を奨励し、学習との両立を図る 活動を通して、コミュニケーション力を高め、たくましい人間に育てる	3.1	新たな同好会の発足もあり、部活動活性化への取り組みはできている。既存の部活動に関しては競技力の向上はもちろん、挨拶、清掃作業、コミュニケーション力の育成、その他、社会に適應する力、人間力を意識した指導が不可欠である。運動系の部活動に対して文化系の部活動が少ない現状があり、活動ができる時間帯の確保、そのための時程、その他、見直しは今後の課題である。
評 価				3.3	